

令和8年度 第1回地球温暖化防止に貢献する ブルーカーボンの役割に関する検討会 議事概要

日時：令和8年8月25日(火) 15:30～16:30

場所：ビジョンセンター新橋 1605

【議事 報告事項】

国土交通省より、「ブルーカーボンの拡大に向けた取組」、日立製作所より「常陸那珂港区ブルーカーボンフィールド試験協議会の概要」、環境省より「環境省のブルーカーボンに関する取組状況」について報告され、委員より以下の意見をいただいた。

○ブルーカーボンの拡大に向けた取組

- J ブルークレジットの更なる促進のためには、今後、取引量の拡大や購買意欲向上などのための課題を整理していく必要がある。
- ブルーカーボンの取組として干潟を拡大させるため、航路浚渫と連携し、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブと結びつけられると、おもしろい展開ができるのではないかと。
- ブルーカーボンの一般認知度は以前に比べ向上してきていることから、今後 PR 活動を行っていく中で、認知度や理解が向上したというエビデンスを示すことが重要である。
- ブルーカーボン計測手法の高度化について、人工基盤で海藻養殖や藻場造成を実施するうえで、MRV（測定・報告・検証）コストを抑える方法を考える必要がある。また、クレジット認証の関係者が納得する精度で計測するためのガイドラインを作っていけるとよい。

○常陸那珂港区ブルーカーボンフィールド試験協議会の概要

- フィールド試験では水深 15m程度まで海藻が育つ想定で進めているため、生育水深の異なる複数種の海藻が対象になると思われる。海藻によって CO₂ 吸収の面と産業の面のそれぞれに適した種がある。海藻種ごとに目的を整理して進めていくとよい。

○環境省のブルーカーボンに関する取組状況

- ブルーカーボンについては、政府目標として 2035 年度 100 万トンの CO₂ 吸収目標が打ち出されているが、それを実現していくためにはどのような取組をしていくのか具体的にイメージできるものを示していく必要がある。

以上